



政策課題の取り扱いについて

斉藤 貢一 議員



質問 市長公約の政策課題

35事業を公約取組シートとして、政策具現化のため活用していることですが、「給食費無料化」は、その中に取り入れられているのか、伺います。

答弁 給食費の無料化を指します（第3子以降無料化からスタートします）と

して掲げられています。

質問 スタートが第3子無料ですから、自ずとゴールは給食費完全無料化でよろしいのでしょうか。

答弁 拡大できるかどうかについては、現在検討しているところです。大変申し訳ありません。

質問 公約取組シートは公

表していませんが、選挙においては、公に、また、積極的に市民に訴えたものです。多田市政への市民の判断基準としても、公開すべきと考えますが。

答弁 今後は、市民の皆様にお知らせできるよう進めていきたいと考えています。

質問 「少子化対策」と「子育て世代対策」としての「給食費の無料化」の色々なパターンの試算が出されまして、第3子のスタートから2年が経ち、市長判断を下

さなければならぬと考えますが、お考えを。

答弁 予算編成にあたっては、国・県主導で無償化実現を視野に入れつつ、情報や財源を総合的に考慮し、適切に判断してまいります。

質問 奨学金の給付型の設置についても質問してきましたが、こちらは貸出より返済金が毎年2000万円多い状態であり、貸付残高が5億2000万円あります。また、財政調整基金は33億9000万円。目的も

答弁 人事院勧告分と処遇改善等加算で18%、金額にして月額約5万7000円の増額となっています。

質問 現在の公立保育園の保育士配置に不足はないか伺います。

答弁 公立保育園は、国で定められた年齢別配置基準を満たしたうえで保育に携わっています。

質問 保育士の配置に不足がないのに、なぜ市のホームページにおいて募集しているのでしょうか。

無し、上限も無しに貯めこんでいるだけでなく、投資すべき所には投資すべきと考えますが、お考えを。

答弁 経常的に安定した一般財源が必要と考えます。

要望 近隣市町と比べても、子育て世代への投資が一段も二段も低い当市にとって、少子化も含め、短期・中期・長期投資の考え方や施策を明確にしていただきたい。そのための財政調整基金、奨学基金の有効積立ではないのでしょうか。

答弁 発達の気になる子、アレルギー児の個別対応や途中入園希望の受入のため、配置基準を満たすだけでは十分な保育が難しいケースもあるで行っています。

質問 県境にある本市として、近隣市町との賃金差や職場環境の改善、働きやすさにどう取り組みますか。

答弁 賃金面での処遇改善のほか、快く働いてもらえるような職場環境、相談体制の整備などに引き続き努力してまいります。



保育士の配置と処遇改善について

田辺 純子 議員



質問 本市は国基準で職員を配置しているとのことですが、栃木県は1歳児3対1、埼玉県や新潟県も4対1と上乗せしています。公立保育園と近隣自治体の

配置の状況を伺います。

答弁 私立園は全ての園で群馬県保育充実促進費補助金や3歳児配置改善加算を

受けられる手厚い配置を行っており、高崎市、伊勢崎市や太田市、富岡市でも補助金を支出しています。

質問 公立園の1歳児6対1を私立園と同じ5対1に、市の基準を変えることができないでしょうか。また、

国が配置基準の見直しについて言及していますが、今

を注視し対応していきます。

質問 保育士確保が大きな課題だと思えます。処遇改善に係る現状を伺います。